

司式:海野 恵
奏楽:吉田千鶴子

前奏:「わが魂よ、主をほめまつれ」

招詞:もはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。(ガラ3:28)

讃美歌:2「聖なるみ神は」

交読詩編 119:65-72 テト(㊦)

- 65 主よ、あなたの御言葉のとおり/あなたの僕に恵み深くお計らいください。
- 66 確かな判断力と知識をもつように/わたしを教えてください。わたしはあなたの戒めを信じています。
- 67 わたしは迷い出て、ついに卑しめられました。今からは、あなたの仰せを守らせてください。
- 68 あなたは善なる方、すべてを善とする方。あなたの掟を教えてください。
- 69 傲慢な者は偽りの薬を塗ろうとしますが/わたしは心を尽くしてあなたの命令を守ります。
- 70 彼らの心は脂肪に閉ざされています。わたしはあなたの律法を楽しみます。
- 71 卑しめられたのはわたしのために良いことでした。わたしはあなたの掟を学ぶようになりました。
- 72 あなたの口から出る律法はわたしにとって/幾千の金銀にまさる恵みです。

朗読聖書①エゼキエル書 22:23-31

- 23 主の言葉がわたしに臨んだ。
- 24 「人の子よ、エルサレムに語りなさい。お前は憤りの日に、雨も降らず清められることもない土地だ。
- 25 都の中に預言者たちの陰謀がある。獅子がほえ、獲物を引き裂くように、都の中で人々は食われ、富や財宝が奪われ、やもめの数は増した。
- 26 祭司たちはわたしの律法を犯し、わたしの聖なるものを汚した。彼らは聖と俗とを区別せず、浄と汚れの区別を教えず、わたしの安息日に目を覆った。こうして、わたしは彼らの間で汚されている。
- 27 また、高官たちは都の中で獲物を引き裂く狼のようだ。彼らは不正の利を得るために、血を流し、人々を殺す。
- 28 また、預言者たちは、城壁に漆喰で上塗りをした。彼らは空しい幻を見、欺きの占いをし、主が語られないのに、『主なる神はこう言われる』と言う。
- 29 国の民は抑圧を行い、強奪をした。彼らは貧しい者、乏しい者を苦しめ、寄留の外国人を不当に抑圧した。
- 30 この地を滅ぼすことがないように、わたしは、わが前に石垣を築き、石垣の破れ口に立つ者を彼らの中から探し求めたが、見いだすことができなかった。
- 31 それゆえ、わたしは憤りを彼らの上に注ぎ、怒りの火によって彼らを滅ぼし、彼らの行いの報いをその頭上に返す」と主なる神は言われる。

朗読聖書②マタイによる福音書 7:15-23

◆実によって木を知る

- 15 「偽預言者を警戒しなさい。彼らは羊の皮を身にまといながらあなたがたのところに来るが、その内側は貪欲な狼である。
- 16 あなたがたは、その実で彼らを見分ける。茨からぶどうが、あざみからいちじくが採れるだろうか。
- 17 すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。

18 良い木が悪い実を結ぶことはなく、また、悪い木が良い実を結ぶこともできない。

19 良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。

20 このように、あなたがたはその実で彼らを見分ける。」

◆あなたたちのことは知らない

21 「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。

22 かの日には、大勢の者がわたしに、『主よ、主よ、わたしたちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡をいろいろ行ったではありませんか』と言うであろう。

23 そのとき、わたしはきっぱりとこう言う。『あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ。』

祈祷

ここに集う一人ひとりの救い主、イエス・キリストの父なる御神さま。唯一真なる愛と慈しみに富み給う尊い聖名を賛美致します。

今朝、酷暑の中ではありますが、一人ひとり、名を呼ばれ、環境の整えられた御堂において、聖霊降臨節第七の主日礼拝をお献げする恵みを与えられたことを心より感謝申し上げます。また、ライブ配信によって共に礼拝に与っている兄弟姉妹に、等しく恵みを与えられますように祈ります。

私たちは先の主日礼拝において笠原牧師を通し、聖霊のお働きによりメッセージを戴きました。感謝致します。神の癒しを受けつつ、私たちが隣人を赦さないことがないように、という『主の祈り』の真意を聞きました。けれども、御前にあって過ぎた一週間の歩みの中で、私たちは心から隣人を赦せたでしょうか？ 御心に沿って歩むことを願いつつも、自己中心的で愛に乏しかったことを告白致します。お赦しください。このような私たちをも、今朝、再び礼拝をお招きくださり、悔い改めの機会を与えてくださった尽きない恵みに感謝申し上げます。

信濃町教会は今年度 101 年目を迎え、新たな希望をもって歩むことができますことを感謝致します。けれども、私たちは地上での年月を重ねる中で、時として体の衰えを体験します。それに伴って魂も嘆きを覚えることもあります。そのような時も、神さまが、愛する御子イエス・キリストを、私たちの救いの為にお送りくださいましたことを御子の十字架の苦しみによって、私たちは既に癒され、新しい命を与えられていることを堅く信じさせてください。お互いに祈りつつ、励まし合いながら御前を歩んでいくことができますように。100 周年の働きの中で、特に文書の作成に心血を注いで働かれている兄弟姉妹のお働きの上に格別の主の御助けを希います。完成の暁には、共に感謝を献げ、喜びを分かち合うことができますように。

世界の平和のために祈ります。私たちは平和な地に生かされ、礼拝を守ることが赦されており。感謝致します。けれども、信仰を与えられていながらも礼拝を守ることさえ困難な国や地域の方々に、主の助けを切に祈ります。人と人とが赦し合えない心が民族の争いを産み、国と国との戦いが何時果てるともありません。戦争が一日も早く止みますように。平和の主の御心が為されますように切に祈ります。

日本においても痛ましい災害が起きております。困難に立ち向かう人々に助けをお与えくださいますように。また、福島に残された先の見えない負の遺産に解決の道をお与えくださいますように切に祈ります。礼拝から

遠ざかっている友の上に憐れみ深い主のお導きを祈ります。病で苦しむ友に、どうぞ癒しと苦しみに耐える信仰と力をお与えください。介護の労苦を担う友、老いの寂しさの中に置かれている友、喪失の苦しみに耐えている友の傍らに、慰めの主がお立ちくださいますようにお祈り致します。

今朝、『真の信仰に生きる』と題して御言葉を取次いでくださる佃雅之牧師の働きを祝し、聖霊が豊かにお導きくださいますように祈ります。渾身の想いを持って準備された御言葉を聴く私たちの心を開き、聖霊降臨節の恵みを授けていただきますように願います。

今朝献げられる日本各地の主の日の礼拝、世界各地の礼拝によって主の救いが遍く宣べ伝えられ、聖名が褒め称えられますように。

この礼拝の主催者として、初めから終わりまでを御手の内に置いてくださいますように。言い尽くし得ませぬ感謝と祈り、私たちの尊い救い主、イエス・キリストの聖名を通して御前にお献げ致します。アーメン。

讚美歌459「飼い主わが主よ」

説教 「真の信仰に生きる」 佃 雅之

キリストは『山上の説教』を通して私たちにキリスト者としての生き方を教えていただきました。それは謂わば、個人の信仰生活に関わることでした。“求めなさい。”“探しなさい。”“門を叩きなさい。”そして、“人にしてもらいたいと思うことは何でもあなたがたも人にしなさい。”と言われ、その後、“狭い門から入りなさい。”と戒められたのであります。「狭い門」とは“キリストご自身”のことです。キリストは私たちに“どのように生きることが真の幸であるか”を語り終えると、“わたしから入りなさい。わたしが命の門だ。”と言われました。なぜ、多くの教えの後に、改めて、“わたしから入りなさい”と言われたのでしょうか。それは、“信仰を与えられ、キリストの弟子となった者であっても、狭い門を見いだす者が少ないから”です。なぜ少ないのか、その理由の一つが今日の箇所が登場する「偽預言者」の存在です。偽預言者は私たちを含めた多くの人を狭い門ではなく広い門へと誘います。私たちには偽預言者の語る言葉や行いが信仰者らしい生き方に聞こえてしまう、見えてしまうことがあります。しかしキリストは、その“広い門は滅びに通じている”と言われています。だからこそ、私たちは偽預言者に警戒しなければなりません。

「偽預言者を警戒しなさい。」という言葉はキリストに付き従ってきた弟子たちに向けて語られています。今、キリストの話を聞いている弟子たちが、やがて教会を建て、導いていくことになるからです。『山上の説教』は個人の信仰生活から教会全体のことへと進められていきます。なぜなら偽預言者は、教会の外だけではなく教会の中にも現れるからです。真の預言者は神の言葉を語ります。自分の考えや願いを語るのではなく、主の言葉を伝えるのが真の預言者です。その反対に、偽預言者は自分の考え、自分の願いを語ります。自分の目的を達成するために人々を自分の意のままに動かす、自分の利益のために利用しようとします。神にではなく、人間の思いに人を従わせようとするのが偽預言者の特徴であります。つまり、人を神から遠ざけよう、教会から遠ざけようとするのです。そのような偽預言者についてキリストは、「彼らは羊の皮を身にまといながらあなたがたのところに来るが、その内側は貪欲な狼である」と語られています。彼らは狼のごとく教会を荒らし、混乱させて、自分に従わせようとするのです。しかし外見からは見分けがつかず、怖そうな顔をしているわけではなく、態度が横柄なわけでもなく、羊のような優しい顔で、従順な姿で近づいてくるからです。さ

らに厄介なのは、彼らはキリストに向かって「主よ、主よ」と呼びかけます。「主」というのは、最も短い信仰告白の言葉です。

しかし、そのような彼らに対してキリストは、「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。」と言われます。この言葉は私たちを驚かせます。“主の御名を呼び、信仰を言い表し、信仰者として生きている積りであっても、それだけでは、天の国に入ることができない”と言われているからです。私たちは信仰の告白さえすれば天の国に入れると思込んでしまうところがあります。しかし、キリストは、「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。」と言われるのです。では、何が求められているのでしょうか。天の父の御心を行う者だけが天の国に入ることができます。私たちは“御心行う者”と言われると“主よ”と告白することだけではなく、“行動が伴っていないといけないのだ”と言われているように思います。しかし、ここで言われていることは、“言葉か、行動か”と言うことではないようです。キリストは続けてこう言われました。

かの日には、大勢の者がわたしに、『主よ、主よ、わたしたちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇蹟をいろいろ行ったではありませんか』と言うであろう。

「かの日」というのは、「終わりの時」を表す言葉です。キリストが再び来られる時であり、最終的な救いの完成がもたらされます。しかし、それは同時に、「裁きの日」でもあるのです。“全ての人が御前に立つことになる日”であります。その日には、多くの人々、つまり、“キリストを主です”と告白した人たちが、こう言うのです。“私はあなたの教えに従って生きてきました。人のために働き、祈り、奉仕をし、奇蹟さえ行いました。言葉だけではなく行いにおいても忠実な僕として仕えてきたのです”と。偽預言者たちは、人の目には信仰深いキリスト者らしい存在として映るでしょう。愛の業に励んでいるようにも見えます。しかし、彼等に対するキリストの言葉は残酷なほど厳しいものです。「あなたたちのことは全然知らない。不法を働く子ども、わたしから離れ去れ。」とまで言われています。「知らない」というのは、「一切関係がない」という意味です。

何がいけないのでしょうか。なぜキリストは、これほどまでに厳しい言葉を言われるのでしょうか。それは、“彼らの行いが、どれほど信仰的に見えたとしても、御心に適っていなかった”ということです。ここで問われていることは、“どれほどのことをしたのかではなく、誰と共に生きたのか、キリストに繋がっているかどうか”ということでもあります。つまり、主との関係性が問われているという点です。私たちは、目に見える奉仕に心を奪われがちです。しかし、神がご覧になるのは、その奥にある心なのです。

私たちはここで、これまでにキリストが山上から語られた説教をもう一度思い起こさなければなりません。キリストが繰り返し語られたのは、いかにも善行をしているように見せかけることへの警告でした。“貧しい人たちのために施しをしています。”“誰から見ても分かるように祈っています。”“信仰を深めるために断食しています。”と言う人たちに対して、キリストは、“あなたたちは偽善者だ。”と言われています。信仰者の生活の基本として大切な施しも、祈りも、断食も、誰かに見ってもらおう、誰かに知ってもらおうとするなら、“それは偽善だ”ということでした。“キリストは自分の行為を誇る者、ひけらかす者を嫌われる”ということです。偽善者は、“聖名によって、聖名によって、聖名によって”と言いながら自分のしたことを誇っています。“私は予言しました、私は悪霊を追い出しました、私は奇蹟を起こしました”と言う者にキリストは、「あなた

たちのことは全然知らない」と言われます。神にではなく、自分の栄光を誇るような言葉と行いをキリストは一切お認めになりません。“キリストに認められたい、神さまに褒められたい、救われたい、義とされたい、そのために何を言ったらいいの、何をすればいいの、美しい言葉を探し、目立つ働きを選び取ろうとする”、それは主の目には『悪』と映るのです。

今日は旧約聖書から預言者エゼキエルに臨んだ主の言葉を聞きました。24 節に「憤りの日」と書かれています。「憤りの日」というのは「裁きの日」と同じ意味を持っていますが、ここではもっとはっきりと、「終わりの日」に、「神が民に対して有罪の判決を下す」ことを意味しています。場面は、主の大法廷です。全ての神の民が主の御前に呼び集められています。まさに主なる神が、今、ここに立たれて、教会に集められた私たちを見回しているかのような場面です。呼び集めた者たちは、自分の属しているグループ、具体的には、預言者、祭祀、高官、そして市民たちと神から与えられた役割毎に整列しています。

神は、まず、預言者たちへ陰謀があることを言い渡されます。陰謀があるということは神に背く行為、つまり、律法違反があるということです。“預言者たちは本来の務めを忘れてしまって自分たちの欲を満たして悪を働いている”と言われています。祭司たちも同様です。彼らも律法を犯し、本来の務めを行わず、「安息日に目を覆って」いました。「目を覆う」というのは“無視して、ないがしろにして、守らなかった”ということです。“神に仕えるべき彼らが、かえって神を汚している”という指摘です。27 節にある「高官」とは“国のリーダーたち”のことです。高官たちは、「不正の利を得るために」暴力を揮い、弱い立場の人を抑圧していました。そのような彼らをエゼキエルは「狼」と呼び、厳しく非難しています。しかし、墮落しきっているのは、宗教上の指導者、国のリーダーだけではなく、国の民すべてであることが指摘されています。神の都エルサレムであっても、神の民であると自称しても、主を愛さず自分を愛し、隣人を愛さず自分を愛した者は主の法廷で裁きを受けることになるのです。31 節に裁きの言葉が書かれています。「わたしは憤りを彼らの上に注ぎ、怒りの火によって彼らを滅ぼす」と言い渡されています。今日のキリストの言葉なら、「あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ。」ということです。

何時か必ず、「裁きの日」が来ます。人は長い時間、外見を繕い、偽装することができたとしても、何時かその偽装は見破られ剥ぎ取られる時が必ず来ます。私たちは、言葉で人を欺くことはできても、神を欺くことはできません。誰も、心を見る、神を最後まで騙すことはできないのです。偽預言者たちは、主の名を呼びつつ力強く行動して大きな業績を残しました。しかしそれは、信仰的な言葉を口にした、つまり形だけの信仰になっていたということです。では、御心を行うとはどのようなことでしょうか。それは、キリストがされたように“自分を無にして、謙って、父なる神の御意思に服従して生きる”ことであります。

私たちは教会生活において偽預言者に惑わされてはいないでしょうか。ただし、「偽預言者を警戒しなさい」という言葉は、私たち自身にも向けられている言葉であります。私たちは周りだけでなく、自分自身にも警戒して、注意を払って、御心を行ない、良い実を結ばなければなりません。では良い実を結ぶために、私たちはどのようにすればいいのでしょうか。キリストは「あなたがたは、その実で彼らを見分ける」ことができる、と言われています。なぜなら、「茨からぶどうが、あざみからいちじくが採れる」ことはありえないから

です。聖書で「茨」と「あざみ」は不要な物の象徴です。呪いを受け、やがて焼かれるものであります。「すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結び」、「良い木が悪い実を結ぶことはなく、また、悪い木が良い実を結ぶことはできない」とキリストは言われました。つまり、「木によって決まる」ということです。キリストは、「わたしはまことのぶどうの木だ」と、言われています。『ヨハネによる福音書』15 章(1 節)にある大変有名な言葉です。“まことの良い木はわたしだ、あなたがたは“わたしにつながっていないさい。そうすれば良い実をつけることができる”と、キリスト言われています。私たちは誰一人、「良い木」ではないのです。「良い木」はキリストお一人だけです。“正しい者は、一人もいません(詩 14:3, ロマ 3:10)”。私たちはキリストに繋がっていることで赦されている、救われてる、義とされ、聖とされています。“人がわたしにつながっており、わたしもその人につながってれば、その人は豊かに実を結ぶ”とキリストは言うてくださっているのです。大切なのは、何をしたかではなく、“今、誰に繋がっているのか”です。私たちは自分で良い実を実らせようとして頑張るのではなく、キリストに繋がりが続くことで良い実が結ばれます。教会の危機、そして私たちの信仰が守られるためには、キリストに繋がって生きることです。

私たちはキリストとしっかり結びついて生きていますでしょうか。信仰は形を整えることでも、成果を積み重ねることでもありません。キリストとの関係です。キリストと日々親しく交わり、主の愛にとどまり、御声に耳を傾けて歩んでいく、それが天の国に通じる道です。天の国は偉大な働きをした人に与えられる報酬ではなく、キリストと繋がって生きた者に与えられる恵の賜物です。良い木であるキリストに繋がりが、キリストと親しい交わりを保ち、終わりの日まで主の恵みの中を歩んでいきたいと切に望みます。お祈り致します。

聖なる神。あなたが与えてくださった信仰によって、あなたの愛と憐れみによって、今、私たちが、御子イエス・キリストと固く結びつくことができている幸を覚えて感謝致します。私たちは、主に繋がっていることで良い実を結ぶことができます。主よ、どうぞ、終わりの日まで、私たちが主に繋がって、真の信仰に生きることができるよう。このあなたの教会で主にある交わりが益々豊かなものになり、確かなものになりますように、聖霊が守り導いてください。

主の聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:494「ガリラヤの風」

献金・感謝(水崎純一郎)・主の祈り(讃美歌 21 93-5A)

父なる神さま、主にある兄弟姉妹と共に礼拝に連なることが赦されておりますことを感謝致します。説教通じて豊かに御言葉を与えてくださり感謝致します。私たちが、この一週間を夫々の旅路の中で御言葉を糧として歩むことができますようにお導き下さい。

私たちは必要な物を与えられ、主の僕として生きることを赦されていることを感謝致します。今、夫々与えられた物の中から、感謝と献身の徴を御前に献げます。どうぞ、祝して教会のご用のために用いてください。

主が教えてくださった『主の祈り』を共に祈り、新しい日々を迎えさせてください。「主の祈り」…アーメン。

派遣:讃美歌 88「心に愛を」

祝福:主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたが一同と共にあるように。

アメン。

報告：週報記載以外特記事項無し

後奏：「主、イエス・キリストよ、われらをかえりみ給え」(G. ベーム)